

最新記事

ウクライナ

1

2

3

Next

したたかで不屈の男...ゼレンスキーが「大国」から国を守るのは、実は今回が2度目

A FIGHTING CHANCE

2022年3月18日（金）17時18分

ジェレミー・スタール

187

4



ゼレンスキー（左）はトランプ（右）の機嫌を取りつつ要求には屈しなかった（2019年9月） JONATHAN ERNST-REUTERS

＜プーチンの軍隊を相手にウクライナ国民を鼓舞し続けるウクライナ大統領は、かつてトランプが突きつけた不当な要求に屈しなかったしたたかな人物＞

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は、ロシア軍による侵攻に徹底抗戦の構えを貫き、国際社会を味方に付けている。

だが戦争が実際に始まる直前までは、彼に国を守る能力があるかどうかを疑う声が多かった。例えばウクライナのネットメディア「キエフ・インディペンデント」のオルガ・ルデンコ編集長は2月21日付のニューヨーク・タイムズ紙への寄稿で、元コメディアン

のゼレンスキーは「自らの処理能力を超えた状況の中にいる」と指摘した。

広告



しかしロシア軍が侵攻して間もなく、ルデンコをはじめ多くの人々がゼレンスキーへの評価を一変させた。ルデンコは侵攻翌日のツイッターに「彼は今まで多くのひどい失敗をしてきたが、今日は国の指導者にふさわしい姿を見せけている」と投稿した。

ゼレンスキーに向けられていた批判（主として国内の腐敗を撲滅できないことへの批判）は、もっともなものだった。しかし彼が今回の事態に対処できることを予感させる出来事が、少なくとも1つあった。2019年にドナルド・トランプ米大統領（当時）に脅迫されるという事態を巧みに乗り切った一件だ。

トランプ陣営が突きつけた要求

ゼレンスキーが19年5月に大統領に就任した直後から、トランプの個人弁護士だったルディ・ジュリアーニは彼に圧力をかけ始めた。ジョー・バイデン（現米大統領）の次男ハンターとウクライナのガス会社に絡む疑惑について調査を行わせようとしたのだ。翌

年の大統領選を前に、対抗馬となるバイデンに打撃を与えることが狙いだったとみられる。

さらにジュリアーニは、16年の米大統領選にロシアが介入した問題から目をそらさせる目的で、実は介入していたのはウクライナだったという説について調査を行うようゼレンスキーに迫った。19年7月22日の電話でジュリアーニは、ゼレンスキーの側近にこう語った。「大統領にやってほしいのは『信頼できる検察官を担当に付け、その検察官が捜査して証拠を掘り出す』と言ってもらうことだけだ」

ジュリアーニは、ゼレンスキーが一連の調査に着手するのは、アメリカとの関係が「はるかに良好なものになる」材料だとも語った。既にウクライナでは政府軍と親ロシア派の5年にわたる戦闘で、約1万3000人の犠牲者が出ていた。ゼレンスキーにとって、米大統領からの支持は何としても欲しかった。

次のページ 米議会は超党派でウクライナ支援を支持

1

2

3

次のページ

したたかで不屈の男...ゼレンスキーが「大国」から国を守るのは、実は今回が2度目

A FIGHTING CHANCE

2022年3月18日（金） 17時18分

ジェレミー・スタール

187

4

3日後の7月25日、ゼレンスキーはトランプとの電話会談に臨んだ。このときトランプはゼレンスキーに対し、バイデンが次男の税法違反疑惑について「訴追を阻止した」疑いを調べるために「あらゆる手を尽くす」よう、一層の圧力をかけた。

この電話会談の間、ゼレンスキーはトランプに取り入るような姿勢を示し続けたが、具体的な行動を確約することはなかった。トランプは満足せず、ウクライナへの約4億ドルの軍事支援を保留した。

広告



ゼレンスキーが要求を受け入れなかった裏には、戦略的な理由もあった。アメリカで争う二大政党のうち一方に肩入れをしたように受け止められ、もう一方の支持を失うことはしたくなかった。

ゼレンスキーはこの電話でトランプにこびへつらいながらも、彼の要求を最後まで受け入れなかった。ゼレンスキーはトランプが選挙戦で使った「ヘド口をかき出す」というキャッチフレーズをまねていると言い、「あなたは私たちの偉大な手本だ」と褒めそやした。

後に「トランプがゼレンスキーを脅した」という内部告発を受けて、この会談の概略が公になると、ゼレンスキーは「卑屈だった」「トランプに同調しすぎた」という批判が起こった。しかし全力でトランプの機嫌を取り、それでいてウクライナを破滅に導きかねない要求に屈することがなかったという点で、ゼレンスキーの対応は完璧だった。19年9月には内部告発者が通話を暴露したことがきっかけで、保留されていたウクライナへの約4億ドルの軍事支援が承認された。

米議会は超党派でウクライナ支援を支持

一連の問題が明るみに出たことについては、ゼレンスキーも重要な役割を果たしていた。米民主党が告発内容の調査を立ち上げる1週間前、ゼレンスキーは同党のクリス・マーフィー上院議員に対し、ジュリアーニからバイデンを調査するよう圧力を受けていたと明かした。彼は最後の手段として、トランプの弁護士を「売った」のだ。

自分自身とウクライナにとって大きな惨事に発展していた可能性があるこの問題に、ゼレンスキーは巧みに対処した。その結果、彼はウクライナへの巨額の軍事支援について、米議会で超党派の支持を得た。

トランプの1回目の弾劾訴追の翌年である20年には、ウクライナに対して2億5000万ドルの安全保障関連支援と、対戦車ミサイル「ジャベリン」150基の提供が超党派の支持によって承認された。大統領となったバイデンは昨年、ウクライナに武器を提供しないというオバマ元政権の方針を覆し、1億2500万ドルの軍事支援と、ジャベリンの追加提供を承認。これも超党派の支持によるものだった。

次のページ もし今もトランプが米大統領だったら

したたかで不屈の男...ゼレンスキーが「大国」から国を守るのは、実は今回が2度目

A FIGHTING CHANCE

2022年3月18日（金） 17時18分

ジェレミー・スタール

187

4

さらに米議会は22年度国防権限法によって、ウクライナに対する安全保障関連の支援を年2億5000万ドルから3億ドルに増額。これも超党派の支持によるものだ。米議会ではウクライナへの武器供与と対ロシア制裁を支持する声が急速に高まっており、現在もウクライナがロシア軍に抵抗するためのさらなる支援を検討している。

もしトランプが今も大統領だったら、かつてゼレンスキーが宿敵バイデンを蹴落とす手伝いをしなかったことを根に持って、ウクライナを支援しなかったかもしれない。だとしたら国際社会がウクライナの味方に付くことはなく、首都キエフはとっくに陥落していたかもしれない。

広告



バイデンが大統領の今でも、プーチンがこのまま軍事作戦を激化させるなら、ウクライナがいずれ制圧される可能性は高いようにみえる。それでもあらゆる予想に反して、いまゼレンスキーはウクライナにこの戦いを生き抜くチャンスをもたらしている。何も驚くことではない。ゼレンスキーは以前にも危機を迎えながら、祖国ウクライナを見事に救っていたのだから。

©2022 [The Slate Group](#)

【関連記事】

[惨状伝えるゼレンスキー大統領の演説に、涙で声を詰まらせる通訳者](#)
[ゼレンスキーは英雄か、世界を大戦に巻き込むポピュリストか](#)

[前のページ](#)

[1](#)

[2](#)

[3](#)